**視覚障害者の外出に関する意識調査**

**報告書**

2019年3月

特定非営利活動法人 神奈川県視覚障害者福祉協会

社会福祉法人日本盲人福祉委員会助成事業

**まえがき**

　2016年8月東京メトロ銀座線青山一丁目駅の痛ましい事故が起こり、それがきっかけとなって、視覚障害者のホーム転落事故防止の検討と対策が進められてきました。そのあとも相次いで6件もの視覚障害者の転落死亡事故が起きています。これらの転落事故を防ぐ究極の防止対策はやはり「ホームドアを全ての駅ホームに設置する」ことであると言えます。

　また、2018年12月に東京練馬区において、早朝、音響信号機があるのにも関わらず作動していない時間帯に、横断歩道を渡っていた視覚障害者が車にはねられ命を落とすという痛ましい事故も発生しています。

　この他にも自転車との接触事故をはじめとして、通行人が使用している「歩きスマホ」による事故も発生しています。

　事故防止の設備を設置するには、ホームドアの場合は、設置費用が高額なこと、そして駅の構造上の問題などがあり、2017年度末での設置済みの数は725駅(日本の総駅数9,500)にとどまっています。

　また、音響信号機については設置が進んでいるとは言えず、これについては近隣住民の反対があるとも聞いています。

　以上のことから、いつになったら視覚障害者が安全に安心して外出できるかが今日的な課題となっています。このようなことを踏まえ、神奈川県視覚障害者福祉協会では、2018年9月と10月にわたって外出時のさまざまな事柄についてアンケート調査を実施しました。

　この調査に当たっては視覚障害者約200人、晴眼者約600人を対象に調査を行いました。そして、神奈川工科大学小川研究室の協力を得て調査結果を分析し、本報告書を作成しました。そこで、外出に関してさまざまなことが見えてきました。

　この調査結果を踏まえ、当会では次のような提言を行うこととしました。

１　国民全体に「視覚障害者の特性についての理解」を進める運動の推進

２　すべての駅に早期にホームドアを設置

３　ホームドアが設置されていない駅ホームには必ず内方線付点字ブロックの設置。

４　音響信号機の作動時間の延長、及び歩行時間延長用小型送信機の使用可能な信号機の

増設

５　公共施設での音声誘導システムの常態化

６　市街地や駅において、視覚障害者への適切な「声かけ」運動の推進

特定非営利活動法人　神奈川県視覚障害者福祉協会

理事長　鈴木　孝幸

視覚障害者の外出に関する意識調査報告書　目次

1. 目的　 1
2. 方法　 1
3. 視覚障害者対象のアンケート調査結果　 3

3.1　回答者の属性　 3

(1)　年齢層

(2)　性別

(3)　手帳等級

(4)　職業

3.2　外出方法　 4

(1)　単独外出の有無

(2)　外出時の使用用具

(3)　一人での交通機関の利用

(4)　同行援護の利用

(5)　同行援護以外での人的支援

3.3　視覚障害者関連の設備など　 8

(1)　点字ブロック

(2)　内方線付きの点字ブロック

(3)　点字ブロックの色

(4)　エスコートゾーン

(5)　歩道と車道の段差

3.4　街で聴こえる音　 11

(1)　音の出る信号機

(2)　改札口の音

(3)　ホーム上の階段の鳥の声

(4)　地下に入る入口での音

* 1. ホームドア　 14

(1)　ホームドア

(2)　ホームドアの一般の人への効果

(3)　設置に対する行政、鉄道会社の負担

(4)　設置に運賃の値上げに対する意識

* 1. 電車の車両　 17

(1)　優先席

(2)　携帯やスマホの電源

(3)　女性専用車両

(4)　弱冷房車

(5)　ドアに付いている車両番号

(6)　ドアの開閉ボタン

(7)　ドアの開閉ボタンの位置

3.7　自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)　 22

(1)　静かな車に困っている人

(2)　静かな車に音を出す装置

(3)　静かな車で音が出るのを止める装置

(4)　ある程度音が出る必要性

* 1. 外出時　 24

(1)　声をかけられたか

(2)　声をかけてほしいと思ったか

(3)　断ったことがあるか、その理由

1. 一般晴眼者対象のアンケート調査結果　 28

4.1　回答者の属性　 28

(1)　年齢層

(2)　性別

(3)　手帳等級

(4)　職業

4.2　障害者について　 30

4.3　視覚障害者関連の設備など　 31

(1)　点字ブロック

(2)　内方線付きの点字ブロック

(3)　点字ブロックの色

(4)　エスコートゾーン

(5)　歩道と車道の段差

(6)　点字ブロック上に物を置くこと

4.4　街で聴こえる音　 34

(1)　音の出る信号機

(2)　改札口の音

(3)　ホーム上の階段の鳥の声

(4)　地下に入る入口での音

* 1. ホームドア　 37

(1)　ホームドア

(2)　ホームドアの一般の人への効果

(3)　設置に対する行政、鉄道会社の負担

(4)　設置に運賃の値上げに対する意識

* 1. 電車の車両　 41

(1)　優先席

(2)　携帯やスマホの電源

(3)　女性専用車両

(4)　弱冷房車

(5)　ドアに付いている車両番号

(6)　ドアの開閉ボタン

(7)　ドアの開閉ボタンの位置

(8)　位置がわからない人に気づいたことの有無

(9)　その際、どう対処したか

4.7　自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)　 46

(1)　静かな車に困っている人

(2)　静かな車に音を出す装置

(3)　静かな車で音が出るのを止める装置

(4)　ある程度音が出る必要性

4.8　外出時　 47

(1)　視覚障害者を見かけたこと

(2)　声をかけたか

(3)　声のかけ方を知っているか

(4)　声をかけたことがあるか

(5)　断られたことがあるか

1. 視覚障害者と晴眼者とのアンケート結果の比較　 51

5.1　視覚障害者の回答者と晴眼者の回答者の属性の特徴の比較　 51

1. 回答者の男女比の特徴
2. 回答者の年齢層の特徴

5.2　視覚障害者用の設備等　 51

(1) 点字ブロックについて

(2)内方線付きの点字ブロックについて

1. エスコートゾーンについて
2. 歩道と車道の段差について

5.3　街で聴こえる音　 53

1. 音の出る信号機について
2. 改札口のピンポンという音について

5.4　ホームドアについて　 56

1. ホームドア
2. 電車の車両について
3. 優先席について
4. 女性専用車両について
5. 弱冷房車について
6. 車両番号について
7. ドアの開閉ボタンについて

5.5　自動車について　 61

1. 静かな車に困っている人について

6.　考察　 64

添付資料　 67

アンケート調査用紙

**視覚障害者の外出に関する意識調査報告書**

1. **目的**

近年、視覚障害者が外出するときに、さまざまなインフラ整備が行われていると共に対策が講じられているが、視覚障害者自身及び一般の人々が、それらをどの程度理解し、意識しているかについて、それぞれに対してアンケート調査を行い、今後視覚障害者のより安心・安全な外出について提案を行うことを目的とする。

1. **方法**
2. 調査項目は神奈川県視覚障害者福祉協会にて検討し、作成した。
3. 調査は以下の方法で配布、回収した。

1)視覚障害者への調査

・集合調査: 視覚障害者の会議時に配布、その場で記入・回答を依頼

・メール調査: 各種ＭＬを通じて記入を依頼しメールで回答を依頼

・留置調査: 盲学校に依頼し中学部以上の学生に回答を依頼

　　　2)一般晴眼者への調査

　　　　・集合調査： 民生委員の会合などで配布、その場で記入・回答を依頼

　　　　・メール調査： 主として大学生にはメールにて記入・回答を依頼

　　　　・留置調査： 中学校・高等学校には先生の協力を得て生徒に回答を依頼

飲食店などに置き、来客者に記入・回答を依頼

1. 配布・回収期間　2018年10月
2. アンケート回収後の集計、分析は神奈川工科大学小川研究室にて行った。
3. 結果の内容について神奈川県視覚障害者福祉協会と小川研究室にて検討した上で、考察をまとめた。そして、本報告書の前書きにて提言を提示した。

本調査は社会福祉法人日本盲人福祉委員会（助成金）の協賛を得て特定非営利法人神奈川県視覚障害者福祉協会が主催し、以下の団体、教育機関の協力により行われた。

・横浜市視覚障害者福祉協会　・川崎市視覚障害者福祉協会　・相模原市視覚障害者福祉協会　・神奈川県立平塚盲学校　・横浜市立盲特別支援学校　・横浜訓盲学院

　なお、本報告書は視覚障害者に対しては各種媒体での報告、関係者への報告書配布、そしてホームページ等での公表を行う。

1. **視覚障害者に対する調査結果**

アンケートの回収は、視覚障害者187件、その内、属性の性別と年齢層が未記入のものをそれぞれ除外し、結果に反映したのは、視覚障害者183件であった。

3.1　回答者の属性

(1)　回答者の年齢層

回答者183名中、10代5%(9名)、20代3%(5名)、30代3%(5名)、40代12%(23名)、50代20%(38名)、60代31%(58名)、70代以上26%(48名)であった(図1)。すなわち、大きく分けて60代以上が57%、50代以下が43%であり、おおむね各世代にわたっての回答が得られた。設問の内容によって、50代以下(おおむね成年期)と60代以上(おおむね高齢期)での外出時における知識や意識の差異を比較することとした。

参考までに厚生労働省が2011年に示した全国在宅障害児・者等実態調査結果によると、視覚障害者数は315,500人と推計されており、その内60代以上が約78％、50代以下が約22%となっており、本調査回答者のほうが全国平均よりも若い視覚障害者と言える。

(2)　性別

　回答者183名の男女比は、男性52%(96名)、女性48%(87名)であった(図2)。したがって、男女ほぼ半数ずつから回答を得られた。設問の一部で、性別による意識の違いがあるかについても比較する。

図1　回答者の年齢層別割合(n=183)　 　　図2　回答者の男女別割合(n=183)

　参考までに、男女別に年齢層の割合をみると、男性は50代以下が39%、60代以上が61%、また女性は、50代以下が47%、60代以上が53%であり、おおむね男女共に40代以上が90%を占めている（図3）。

図3　回答者の男女別年齢層(グラフ内の数値単位は%)

(3)　手帳等級

回答者183名中、視覚障害者の障害手帳1級は69%(125名)、2級22%(40名)、3級1%(1名)、4級3%(6名)、5級4%(8名)、6級0%(0名)、手帳未所持0%(1名)であった(図4)。1、2級の所持者で91%を占めており、回答者はほぼ重度の視覚障害者であった。

手帳について、厚生労働省の2011年実態調査をみると視覚障害1級34%、2級27%であり、合わせて61%となっている。したがって、本調査の回答者のほうが重度の視覚障害であると言える。

図4　回答者の障害等級別割合(n=180)

　障害等級を男女別にみても、いずれも重度視覚障害の人が多く、男性は94%、女性は88%が1、2級を占めている(図5)。

図5　男女別障害等級の割合(グラフ内の数値単位は%)

(4)　職業

回答者183名を職業別にみると、中・高・大学生9%(17名)、専門学校生1%(1名)、会社員11%(20名)、公務員8%(14名)、自営業12%(22名)、専業主婦14%(24名)、無職34%(62名)、その他11%(21名)であった(図6)。主婦、無職を合わせると48%、学生、就労が41%、その他11%の割合であった。障害等級では1,2級が大半を占めていたが、回答からみると多くが何らかの社会的な活動を行っているとみられる。

図6　回答者の職業別人数(n=181)

3.2　外出方法

(1)　単独外出の有無

　「単独で自由に外出できる」と回答した人は61%(109名)、「一人では外出できない」と回答した人は39%(70名)であった(図7)。今回の調査では、単独外出の可否を尋ねているが、その行動範囲を明確にして質問を設定していなかった。したがって、常時単独外出なのか、初めての目的地には同行援護などを使っているのか、分けて質問をしていなかったことから、回答者の判断に委ねられることになった。そこで、ここでの質問に対する回答からは大まかな傾向をみることになる。

図7　一人での外出の可否(n=179)

(2)　外出時の使用用具

一人で外出している際に使用しているものは、白杖82%(131名)、盲導犬4%(6名)、白杖や盲導犬は使わない12%(19名)、ソニックガイドのような歩行支援機器2%(4名)であった(図8)。多くが白杖による歩行外出であるが、一部には盲導犬や歩行支援機器も使用されていることがわかる。

図8　外出時の使用用具等（ｎ＝154）

(3)　一人での交通機関の利用

「一人で交通機関を利用できるか」の問いに対する複数回答は、電車113名、バス110名、タクシー117名、モノレール45名、路面電車（江ノ電）38名、その他22名であった(図9)。一般交通機関も使われているが、タクシー利用者も多い。タクシー券については市町村により支給枚数や使用期間の取り扱いが異なるので、市町村の支給状況と外出時の視覚障害者個々の事情に応じた使い方がされていると思われる。

図9　一人での外出時、使用する交通機関(複数回答)

(4)　同行援護の利用

同行援護を利用している人は、73%(133名)、利用していない人27%(49名)であった（図10）。同行援護を利用しないと回答した人の理由については、「制度を知らない」が14名、「使いたくない」12名、「他の制度を利用している」12名であった(図11)。

同行援護は、2011年より実施されており、代筆、代読を含む援助として、かつての移動支援の制度よりも利用しやすい内容となっている。今回の調査でも、回答者の6割は単独外出できると回答しているが、併せて同行援護も利用していると推定できる回答数となっている。すなわち、目的地などによって単独外出と同行援護利用とを使い分けていることが推測される。

図10　同行援護の利用割合(n=182)　　　　 図11　同行援護を利用しない理由

　世代別にみる同行援護の利用率をみると、高齢者のほうが若干多い結果となっている(図12)。

図12　世代別の同行援護を利用している割合(グラフ内の数値単位は%)

(5)　同行援護以外での人的支援

　「同行援護制度以外で外出する場合、どのような人的支援を受けているか」の問いに対する回答は、家族129名、移動支援28名、ボランティア66名、視覚障害の無い友人86名、視覚障害のある友人58名、その他21名という結果であった(図13)。家族と一緒に外出する割合が高いことがわかると共に、話題や趣味、相性などから気楽に外出するにはボランティアや友人という割合も多くを占めている傾向が見られた。また、制度的には同行援護が優先されるが、視覚障害者は移動支援も使えるので市町村のサービス需要によってこちらのサービスを活用する場合もみられている。

図13　同行援護制度以外で外出する場合の支援者（複数回答、単位：人数）

3.3　視覚障害者関連の設備など

(1)　点字ブロック

　点字ブロックについて知っているか、については回答者179名全員が知っていると答え、知らないと回答した人は0人であった。

　点字ブロックは、1965年に三宅精一氏によって考案され名づけられており、1967年には岡山県立盲学校近くの国道に初めて設置されて以来、50年以上経過している。色については弱視者にもわかる黄色を岩橋英行氏が提案し実行されたといわれている。2001年には日本工業規格（JIS）において規格化され、現在では日本全国に普及しているため、今回のアンケート調査でも視覚障害者、晴眼者共によく知られている。

(2)　内方線付きの点字ブロック

「ホームの内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックを知っているか」の問いでは、「知っている」との回答が85%(152名)で、「知らない」との回答が15%(27名)であった(図14)。世代別にみると50代以下のほうが若干知っている割合が多かった(図15)。いずれにしても、おおかたの視覚障害者が内方線を認識し、白杖での確認を行っていることが想定される。

この内方線付きの点字ブロックについては、視覚障害者のホームからの転落事故対策として、国土交通省が2017年にバリアフリー基準に関する省令の改正に伴い、ホーム側に線状の突起を付けた内方線付きブロックと明記することになったとされている。

図14　内方線を知っている割合(n=179)

図15　世代別の内方線を知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

(3)　点字ブロックの色

点字ブロックや内方線付き点字ブロックの色が黄色だということについては、「知っている」が87%(154名)であり、「知らない」が13%(23名)であった(図16)。

図16　内方線付き点字ブロックが黄色と知っている割合(n=177)

(4)　エスコートゾーン

横断歩道にある「エスコートゾーン」については、「知っている」との回答が80%(143名)、「知らない」が12%(21名)、「わからない」が7%(12名)であった(図17)。

図17　エスコートゾーンを知っている割合(n=176)

　世代別にみると60代以上のほうが、50代以下よりも知っている割合が高くエスコートゾーンを利用した経験が多いことが想定される(図18)。

　このエスコートゾーンとは道路横断帯の通称で、それまで一部地域で敷設されてきたエスコートゾーンを、2007年に警察庁が、道路を横断する視覚障害者の安全性と利便性を高めるために設置指針を定め、その後次第に普及してきている。

図18　世代別にみるエスコートゾーンを知っている割合

(5)　歩道と車道の段差

「歩道と車道の段差は必要と思うか」の問いには、「必要」86%(153名)、「必要ない」が5%(9名)、「わからない」が9%(16名)であった(図19)。

神奈川県は、国のバリアフリー法に基づき「まちづくり整備ガイドブック」を出している。その中で、2002年版においても、また2009年版においても、段差は2cmを標準として「セイフティブロック」と名づけている。国は2018年にバリアフリー法の再改正を行っているが、この歩道と車道の段差に関する基準については特段の変更は行われていない。

図19　歩道と車道の段差を必要と思う割合

3.4　街で聴こえる音

(1)　音の出る信号機

「音の出る信号機を知っているか」の問いには、99%(178名)が知っていると回答し、1%(1名)が「知らない」と答えており、ほぼ全ての視覚障害者は知っていると言える(図20)。

警察庁のホームページによれば、2017年3月末現在、歩行者用信号の青時間帯に音を出して横断歩行者に知らせるもの（視覚障害者用付加装置と言われている）は、全国で19,500基（メロディ式約340基、擬音式約19,100基）が設置されており、約98%が擬音式となっている。また、歩行者用青信号の開始をチャイム等で横断歩行者に知らせるもの（音響式歩行者誘導付加装置）は、同じく2017年3月末現在に、全国で約3,400基が設置されている。設置場所の基準は、視覚障害者の利用頻度が高い、視覚障害特別支援学校、リハビリテーションセンター、役所などの公共施設を含む地域に優先的に設置されている。

図20　音の出る信号機を知っている割合(n=179)

知っていると答えた方に「これらの音をうるさいと思うか」を尋ねたところ、95%(167名)は「いいえ」と回答し、「うるさいと思う」は5%(9名)であった(図21)。若干ではあるが視覚障害者の中でもうるさいと感じていることになり、次の質問で想定されるのは音の大きさについて触れているのかもしれない。

図21　音の出る信号機がうるさいと思う割合(n=176)

　音の出る信号機がうるさいと回答した方に、その理由を尋ねたところ、「必要だったら仕方ない」12名、「音の大きさにもよる」5名、「音は必要ない」1名という結果であった(図22)。

図22　音の出る信号機がうるさいと回答した方の意見(数値は回答数)

(2)　改札口の音

　「改札口でピンポンと鳴る音に気づいているか」の問いに対しては、97%(176名)が「はい」と回答し、3%(6名)が「いいえ」と回答しており、ほとんどの人が認識している（図23）。

図23　改札口でピンポンとなる音に　　　図24　ホーム上の階段の鳥の声に

気付いている割合(n=179)　　　　　　　　気づいている割合(n=178)

(3)　ホーム上の階段の鳥の声

「ホーム上の階段の鳥の声に気づいているか」については、「はい」が85%(152名)、「いいえ」が15%(26名)であった(図24)。改札口での音に対して、若干、認識している割合が減っている。

(4)　地下に入る入口での音

　「地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいているか」の問いには、「はい」が61%(106名)、「いいえ」が39%(69名)であった(図25)。これは外出場所の経験に基づくものであり、そうした場所に出向いていない事例も多いと思われ、気づいていない割合は約4割を占めていた。

図25　地下の入口で音がなっていることに気づいている割合(n=175)

　なお、上記のように駅に関する音サインは、「移動支援用音案内」の国内規格としてJIS T0902(高齢者・障害者配慮設計指針－公共空間に設置する移動支援用音案内)として聞き取りやすさの特性の基に流されている。

3.5　ホームドア

　ホームドアは、1974年に国鉄等が移動新幹線の熱海駅に設置した可動式ホーム柵が国内初と言われている。同駅は土地が狭く退避線が設置できず、列車の通過時に風による危険な状態が起きることから設置された。その後、徐々にホームドアを設置する駅が増えてきており、1981年に開業した神戸新交通ポートアイランド線は初の全駅に設置され、その後、1991年に開業した東京メトロ南北線も全駅設置となっている。2006年のバリアフリー新法では、車両の乗降口が一定している等の要件に該当するプラットホームではホームドアまたは可動式ホーム柵を設置することが移動円滑化基準に追加されている。2017年には全国で725駅に設置されているが、ちなみに日本の総駅数は9,500駅である。

　視覚障害者の間でホームドアが話題となるのは、近年、視覚障害者の転落死亡事故が起きていることによる。国土交通省の「ホームからの転落に関する最近の状況」（2016年）によれば、視覚障害者の転落件数は、2012年に91人、2013年に74人、2014年に80人、2015年に94人という数字が示されている。視覚障害者の転落死亡事故は、2016年以降2018年までに7件となっている。したがって、安全対策に関して急務の課題となっている。

1. ホームドア

　「ホームドアを知っているか」については、「はい」98%(174名)、「いいえ」が2%(4名)となっており、ホームドアの設置率はまだ低いものの、知識としては、おおかたがもっていることがわかる(図26)。

　なお、「ホームドアは必要と思うか」についての問いでは、97%(174名)が必要、1%(1名)が不必要、「わからない」が2%(4名)であった(図27)。

図26　ﾎｰﾑﾄﾞｱを知っている割合(n=185)　　　図27　ﾎｰﾑﾄﾞｱを必要と思う割合(n=179)

1. ホームドアの一般の人への効果

　「ホームドアは一般の人にも役立つと思うか」については、「思う」が92%(166名)、「思わない」が1%(2名)、「わからない」が7%(12名)であった（図28）。最近は、ホーム上でのスマホ歩きや飲酒による歩行の乱れなど、線路上への転落の事例も多く、視覚障害者のためというよりも全ての人にとって安全を確保する上で必要という認識であると思われる。

図28　ホームドアは一般の人にも役立つと思う割合(n=180)

1. 設置に対する行政、鉄道会社の負担

　ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していることについて知っているか否かを問うと、「知っている」が85%(154名)、「知らない」が15%(28名)であった。

図29　設置に、国・市町村・鉄道会社が負担していることを知っている割合(n=179)

1. 設置に運賃の値上げに対する意識

「ホームドア設置のために運賃が上がってもかまわないか」について問うと、「はい」は37%(65名)、「いいえ」は14%(24名)、「金額にもよる」は49%(86名)であった(図30)。「はい」と「金額にもよる」を合わせると86%がホームドアについて前向きな考えを示していることがわかる。

図30　設置の運賃値上げの可否割合(n=175)　　図31　値上がりの許容金額(n=96)

金額にもよると答えた方98名に対して、「いくらまでなら運賃が上がってもよいか」を尋ねたところ、「10円以下」が29%(28名)、「20円以下」が42%(40名)、「50円以下」が29%(28名)であった（図31）。

3.6　電車の車両

1. 優先席

　「優先席のある場所を知っているか」については、「知っている」が72%(131名)、「知らない」が28%(50名)であった（図32）。これは、路線や車両によって優先席の場所が異なり、それは知らないと解釈したかもしれない。

図32　優先席の場所を知っている割合(n=181)

1. 携帯やスマホの電源

　「優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切るか」の問いには、「はい」22%(39名)、「いいえ」54%(97名)、「どちらとも言えない」25%(45名)であった（図33）。基本的には切る人は少ないことがわかる。ただし、これはペースメーカー使用者に対する配慮としてかつては車内放送でも「電源を切ってください」と呼び掛けていたが、最近は鉄道会社によって扱いが異なってきていることも影響しているかもしれない。

　ちなみに、JR西日本はじめ関西25社は、2014年7月より「優先座席付近では、混雑時には携帯電話の電源をお切りください」というアナウンスに変更されており、JR東日本等の東日本の鉄道37社も2015年10月より同様の放送に変更されている。これは、携帯電話の電波出力がかなり下がっていることと、ペースメーカーの技術進歩により電波の影響を減らすシールド性能の向上、干渉電波に耐えられるようになっているので、誤作動を起こす恐れがほとんど無くなっていることによる。

図33　優先席付近で携帯やスマホの電源を切る割合(n=181)

1. 女性専用車両

「女性専用車両は何両目か知っているか」については、「知っている」39%(71名)、「知らない」61%(109名)であった(図34)。

図34　女性専用車両は何両目か知っているか否かの割合(n=180)

　この質問を、視覚障害者の男女別に分けてみると実は全く同率で知っている人のほうが少ないことがわかり、女性専用車が障害者利用を認めているが、特段に関心をもっているわけではないことが推測される(図35)。

図35　女性専用車両は何両目か知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

1. 弱冷房車

　「弱冷房車は何両目かを知っているか」については、「知っている」が22%(40名)、「知らない」78%(144名)であった(図36)。

図36　弱冷房者は何両目か知っている割合(n=181)

1. ドアに付いている車両番号

　「ドアについている車両番号を知っているか」の設問には、「知っている」が72%(129名)、「知らない」28%(50名)であった。車両の位置を知って、下車位置を想定しての行動をとっている人もいるが、必ずしもすべてがその表示情報を活用しているわけではない。

　なお、この車両番号とドア番号表示の形状や貼り付け位置の高さなどは鉄道会社によって異なっているので、気づかなかったり、うまく触読できなかったりする場合が考えられる。

図37　ドアの車両番号表示を知っている割合(n=179)

1. ドアの開閉ボタン

　「ドアの開閉ボタンについて知っているか」については、「知っている」が68%(123名)、「知らない」が32%(57名)であった(図38)。開閉ボタンのない路線しか利用していない人もいるものと思われる。

図38　開閉ﾎﾞﾀﾝを知っている割合(n=180)　図39　開閉ﾎﾞﾀﾝの位置を知っている割合

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(n=176)

1. ドアの開閉ボタンの位置

「ドアの開閉ボタンの位置はわかるか」の問いには、「わかる」44%(78名)、「わからない」が56%(98名)であった(図39)。わからないと回答する率が高い。

「いいえ」と答えた方は、どのように対応しているか、を尋ねると、「自分で見つけている」が14名、「人に頼んでいる」が34名、「車掌さんに頼んでいる」が4名、「駅員にお願いしている」が10名、「その他」が39名であった(図40)。

図40　ボタンの位置がわからない場合の対処(n=101)

「その他」の記述内容は、以下のとおりである。

・使用したことがない

・分からない

・探したことはありません

・わからない

・使っていない

・関東では使わない

・一人でない

・使っていない

・利用しないから

・乗ったことがない

・ガイド

・ガイドにたのむ

・使わないのでわからない

・乗ったことないからわからない

・ガイドさんまたは家族

・手動の電車に乗ったことがない

・ガイド

・ボタンの電車に乗ったことがない

・自動開締閉の車両しか利用しない

・同行者に依頼

・あることは知っているが、生活範囲内で自分で利用する電車は走っていない

・乗ったことはない

・開閉ボタンのある電車にはのらない

・使用したことがない

・そのような電車にのる機会がない

・利用したことがない

・利用駅では自動で開く

・後ろからついていく

・そのような電車に乗ったことがない

・利用したことがない

以上の記述回答があった。同一の回答で「使用したことがない」は14件であり、開閉ボタンの無い路線を利用している視覚障害者も多くいると考えられる。乗降客の少ない鉄道路線など地方ではボタンによる開閉となっていることがあり、地域によっては歩行訓練士の訓練項目として必ず取り入れている地域もあるようだ。

3.7　自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)

　ハイブリッドカーや電気自動車の場合、走行しているエンジン音が聞こえない場合があるため、法的には新型車は2018年3月8日から、継続生産者は2022年10月8日から、車両接近警報装置が義務付けられる。EUでも2014年に法成化され、加盟各国では2019年までにそれぞれの国で法制化しなければならないことになっている。国内では、メーカー各社によって若干異なるが、例えば時速20km以下で警報装置を鳴らす場合や、発進から時速30km以内の時と、停止の際、減速して25km以下になったときに鳴らす場合などとなっており、原則、その装置を止めることも可能であるがOFFにしないようユーザーに示している。

(1)　静かな車に困っている人

「静かな車ができて困っている人がいるのを知っているか」の問いには、「知っている」が96%(172名)、「知らない」が4%(7名)であった(図41)。ほぼ自動車が電化されることで歩行などに危険性を感じている理由と思われる。

図41　静かな車に困っている人がいることを知っている割合(n=179)

(2)　静かな車に音を出す装置

「静かな車があえて音を出すようになっていることを知っているか」の問いに対して、「はい」との回答は72%(127名)、「いいえ」が28%(50名)であり、意外に知らない人も多いことがわかった（図42）。

(3)　静かな車で音が出るのを止める装置

「静かな車で音が出るのを止めることができることを知っているか」の問いに対して、「はい」との回答は56%(99名)、「いいえ」との回答は44%(77名)であった（図43）。

図42　音を出す装置を知っている割合(n=177)　図43　音を止める装置を知っている割合(n=176)

1. ある程度音が出る必要性

「車にはある程度の音が出た方が良いと思うか」の問いには、「はい」が79%(146名)、「いいえ」が1%(1名)、「ある程度は必要」が20%(38名)であった(図44)。

図44　車にはある程度音が出たほうがよいと思う割合(n=182)

3.8　外出時

1. 声をかけられたか

外出時に「声をかけられたことがあるか」については、「はい」91%(161名)、「いいえ」9%(15名)であった(図45)。ほとんどの人が声をかけられていることがわかる。

図45　外出した時に声をかけられた割合(n=176)

1. 声をかけてほしいと思ったか

「声をかけてほしいと思ったことはあるか」については、「困ったときにはかけてほしい」が69%(119名)、「いつでもかけてほしい」16%(28名)、「どちらとも言えない」が15%(25名)であった(図46)。一番は「困った時に声をかけてほしい」ということだが、その点は一般の人の気づきがあるかどうかによるので、意外に視覚障害者の困っているタイミングとは合わないことも考えられる。

図46　外出時、声をかけてほしいと思ったことがある割合(n=172)

1. 断ったことがあるか、その理由

「声をかけられたときに断ったことはあるか」については、「ある」が64%(108名)、「いいえ」は36%(61名)であった(図47)。アンケートの回答者総数183名のうち、108名が断った経験があるとの回答であり、多くがのちに示す理由で断っている。次節で晴眼　者のアンケートを取っているが、断られた際の受け止め方もあわせて検討する必要がある。

図47　声をかけられた時、断ったことがある割合(n=169)

断った人に、その断った理由を尋ねたところ、「わかっている場所だから」が67%(87名)、「急いでいたから」が7%(9名)、その他26%(34名)であった(図48)。

図48　断った理由(n=130)

断ったことのある理由(自由記述より)は、以下の通りであった。

* 電車内で声をかけられ、次の駅で降りるからとお断りした
* 将来的に通い続ける場所でしたので、道を覚えるためにお断りしました
* なんとなく不安だから
* 同伴者が買物をしているので待っています
* お願いしたいことと違う形になったから
* 目的の場所がそこだから
* 困っていること　鉄道サポートの場合、私鉄とJRなど会社が違った場合、乗り継ぎサポートがないので困ります
* 付き添いの人間が一時的に離れているときでした
* 大丈夫だから
* 待ち合わせしていたから
* 練習していたから
* 声をかけてくれることはやさしいのだが、断ったときにめげずに、次回も視覚障害者を見かけたときに声をかけてほしい
* 満席の後で声をかけられたとき
* 声のかけ方が気に入らなかったから
* 声のトーン（大声でどなられたような上から目線的な声のかけ方）
* 声をかけてきた時に予期せぬ体の一部に触れられたため（胸・お尻など）
* ADLを維持するため
* 前回かえって迷って困ったことがあるとき、すでに駅員さんに介助をお願いしていたとき。
* うっとおしい、なんでも一人で小生はせんと好かん性格です。目が不自由な人はごく一部を除いで、依存心が非常に強い人がおおいのです。はっきり言いまして、これでは自立心もつきませんので。これをいうと叱られるだろうと思いますが、依存心の強い人、あるいは制度があるけん、片っ端から利用したらえんじゃーというような横柄な人に限ってなんでできん人が多いのも事実です。
* 親切にしてくださる気持ちはうれしいが助けにならなく
* 階段を降りるときに、集中がきれて危険を感じて立ち止まり、気持ちはありがたいが、かえってお互い危険だと言って、まずは見守って介助が必要かどうかを判断してほしいと断った
* 杖をひっぱる、後ろから押す、肩をつかむ、わきにしたから手をいれてもちあげるなどの、声掛けの段階から誘導の方法が危険だった
* 相手が麻痺などで、杖歩行で同行するのは危険だった
* 知っている道以外で連れていかれそうになった
* 酒臭い男性だった
* 後ろから押されたり、服をひっぱられたり、白杖をもたれたりして逆に危なかったことがよくあったから
* 最近は声かけしてくれるひとが多くなって助かっている。電車やバスなどの座席をおしえてもらうのもありがたい。知っているところでもできるだけ、断らないようにしている。視覚障害者への理解を深めてもらう良い機会と考える
* 知っているルートで疲れていて人と話すのがしんどかったから
* 一駅しか乗らないのに席譲られたり普段と違う改札口に案内されようとしたりしたとき
* 外出先から帰宅する所だったから

以上が、自由記述の内容であった。視覚障害者自らの事情の場合と、声をかけてくれる人の態度や行動に問題があった場合などが挙げられていた。

1. **晴眼者へのアンケート調査結果**

　晴眼者へのアンケート調査では、回収は593件であったが、その内、属性の性別と年齢層の回答が無いものを除き、587件を集計の対象とした。

4.1　回答者の属性

(1)　年齢層

　回答者を年代別にみると、10代37%(219名)、20代6%(37名)、30代6%(33名)、40代10%(62名)、50代10%(56名)、60代16%(94名)、70代以上15%(86名)であった(図49)。したがって、10代・20代で43%、30代から50代で26%、60代以上で31%という割合であった。

図49　年代別回答者の割合(n=587)

(2)　性別

　性別では、男性38%(225名)、女性62%(362名)であった(図50)。

図50　回答者の男女別割合(n=587)

　また、回答者の性別の年齢層をみると男性の45%が10代で、それ以上の年齢は10%弱で20代から70代以上に均等に分布している（図51）。女性は10代がやや多くなっているが、広い年齢層から回答を得ている。

図51　回答者の性別年齢層の割合(グラフ内の数値単位は%)

(3)　職業

　回答者を職業別にみると、中・高・大学生が最も多く229名、専業主婦70名、無職60名、会社員54名、公務員52名、自営業20名、そしてその他95名であった（図52）。

図52　回答者の職業（n=580）

4.2　障害者について

　障害者について見聞きしたり、経験したりしたことがある事柄として、多い順に示すと、車いす557件、松葉づえ457件、盲導犬425件、手話447件、電動車いす415件、白杖392件、義足318件、介助犬255件、義手243件、義眼229件、T字杖176件、聴導犬153件、要約筆記141件、ロフストランド杖49件、となっている（図53）。

図53　障害者に関して見聞きしたり経験したりしたことのある事柄(複数回答)

　晴眼者の世代別にみた場合も、どの世代も同様の知識、経験であり、今後、理解、啓発を求めるとすれば、全ての世代に向けた働きかけが必要である（図54）。

図54　年代別で見たり聞いたり経験したりしたことのあるもの(数値単位は%)

4.3　視覚障害者関連の設備など

(1)　点字ブロック

　「点字ブロックを知っているか」の問いに、「はい」は98%(574名)、「いいえ」は2%(12

名)であり(図55)、当然ながらほとんど全ての視覚障害者は知っていると言える。

図55　点字ブロックを知っている割合(n=586)

(2)　内方線付きの点字ブロック

　「内方線付きの点字ブロックを知っているか」の問いには、「はい」が83%(479名)、「いいえ」が17%(95名)となっている(図56)。これはホーム上の点字ブロックの特徴ある形状の敷設であり、知っている割合は少し減っている。

(3)　点字ブロックの色

　「点字ブロックが黄色だと知っているか」の問いには、「はい」が91%(521名)、「いいえ」が9%(54名)であった（図57）。

図56　内方線点字ﾌﾞﾛｯｸを知っている割合　図57　点字ﾌﾞﾛｯｸが黄色と知っている割合

(n=574) (n=575)

(3)　点字ブロックの色

　「点字ブロックが黄色だと知っているか」の問いには、「はい」が91%(521名)、「いいえ」が9%(54名)であった（図57）。

(4)　エスコートゾーン

　「横断歩道のエスコートゾーンを知っているか」の問いには、「はい」が32%(183名)、「いいえ」が34%(192名)、「わからない」が34%(192名)であった(図58)。したがって晴眼者の約7割はエスコードゾーンを知らないことになる。

図58　エスコートゾーンを知っている割合(n=577)

　世代別にみると知っている割合が20代以上は40%であるが、10代は20%に下がっているので、若年層は外出の機会が少ない分、見かけないことが多いと思われる(図59)。

図59　世代別のエスコートゾーンを知っている割合（グラフ内の数値単位は％）

(5)　歩道と車道の段差

　「歩道と車道の段差は必要か」の問いに対して、「はい」が64%(369名)、「いいえ」が18%(100名)、「わからない」が18%(104名)であった（図60）。これは視覚障害者の移動方法などについて十分理解されていない結果と言える。

図60　歩道と車道の段差の必要か否かについての割合(n=573)

　世代別に段差の必要についての意見をみると、若い世代ほど必要性を感じており、高齢層になるほど低くなっている（図61）。これは知識によるものか段差へのつまづきなどの経験があっての意見か、見極めることはむずかしいが、若い世代に理解が進むことは大切なことと言える。

図61　歩道と車道の段差の必要(グラフ内の数値単位は%)

(6)　点字ブロック上に物を置くこと

　点字ブロックの上にものや自転車などを置いてはいけないことについての認識についての回答は、「はい」が91%(528名)、「いいえ」が9%(50名)であった(図62)。この点は100%になるよう啓発活動を進める必要がある。

図62　点字ブロック上に物を置いてはいけないとの認識の有無(n=578)

4.4　街で聴こえる音

(1)　音の出る信号機

　音の出る信号機について「知っているか」の問いに対して、99%(552名)が知っていると回答し、1%(8名)が知らないと回答している(図63)。

図63　音の信号機を知っている割合(n=560)　図64　信号機の音をうるさいと思う割合

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(n=554)

　その信号機の音がうるさいと思うかについての問いでは、「いいえ」が97%(538名)、「はい」が3%(16名)であった(図64)。

　「うるさいと思う」と回答した方は16名であるが、問いの表現が正しく伝わらなかったようで、うるさいとは思わない方の意見も多く含まれている。「必要だったら仕方ない」59名、「大きさにもよる」14名、「音は必要ない」2名となっている（図65）。

図65　「うるさいと思う」と回答した方、その他の意見

(2)　改札口の音

　「改札口のピンポンとなる音を知っているか」の問いに、「はい」との回答は90%(504名)、「いいえ」は10%(53名)であった(図66)。

図66　改札口のピンポンとなる音を知っている割合（n=557）

(3)　ホーム上の階段の鳥の声

　「ホーム上の階段の鳥の声に気づいているか」の問いには、「はい」68%(376名)、「いいえ」32%(181名)であった(図67)。

図67　ホーム上の階段の鳥の声に気づいている割合

(4)　地下に入る入口での音

　「地下に入る入口に音がなっているのに気づいているか」の問いには、「はい」32%(178名)、「いいえ」68%(374名)であった。

図68　地下に入る入口に音が鳴っているのに気づいている割合（n=406）

4.5　ホームドア

1. ホームドア

　「ホームドアを知っているか」の問いには、87%(483名)が「はい」と回答し、13%(75名)が「いいえ」と回答している(図69)。

図69　ホームドアを知っている割合(n=558)

　年齢層別にみると、10代の層は知らないと回答している率が、中高年よりも多い。60代以上は9割以上が知っていると回答している(図70)。

図70　ホームドアを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

　「ホームドアは必要か否か」の問いには、必要が84%(474名)、必要ないが1%(6名)、わからないと回答している人が15%(82名)であった(図71)。この結果を世代別にみると、高齢世代は必要と考え、若い世代は必要と思う割合がわずかに少なかった（図72）。

図71　ホームドアを必要と思う割合(n=557)

図72　世代別にみるホームドアの必要と思う割合(グラフ内の数値単位は%)

1. ホームドアの一般の人への効果

　「ホームドアは一般の人にも役立つと思うか」については、「はい」82%(454名)、「いいえ」1%(8名)、「わからない」17%(92名)であった(図73)。

図73　ホームドアが一般の人にも役立つと思う割合(n=554)

1. 設置に対する行政、鉄道会社の負担

　「ホームドアの設置には、国・市町村・会社が負担していることを知っているか」の問いには、「はい」が55%(306名)、「いいえ」が45%(255名)であった(図74)。

図74　設置に国・市町村・会社が負担していることを知っている割合(n=561)

1. 設置に運賃の値上げに対する意識

　「ホームドアを設置するために運賃が上がってもよいか」の問いに対する回答は、「はい」33%(182名)、「いいえ」13%(74名)、「金額にもよる」が54%(298名)であった(図75)。

図75　ホームドア設置のため運賃が上がってもよいかについての回答(n=554)

　「ホームドア設置で運賃が上がってもよい」と回答したのは33%であったが、世代別にみると20～50代及び60代以上は40%であるが、10代はその半数、21%であり、経済的な理由は少額でも判断に差が出ることが垣間見える(図76)。

図76　ホームドア設置のため運賃が上がってもよいか、の問いへの回答

　「金額にもよる」と回答した人に許容金額を尋ねると、「10円以下」が35%(147名)、「20円以下」が48%(199名)、「50円以下」が17%(71名)であった(図77)。

図77　金額によると回答した人の許容金額(n=417)

4.6　電車の車両

1. 優先席

　電車の車両の「優先席がある場所を知っているか」の問いには、「はい」98%(553名)、「いいえ」2%(10名)であり、ほとんどの人が知っている（図78）。

図78　優先席のある場所を知っている割合(n=563)

1. 携帯やスマホの電源

　「優先席付近で携帯電話やスマートフォンの電源を切るか」については、「はい」が25%(137名)、「いいえ」が51%(288名)、「どちらとも言えない」が24%(135名)であった(図79)。視覚障害者のアンケート調査結果と同様、切る人の割合は少ない。

図79　優先席近辺で携帯やスマホの電源を切る割合(n=560)

　年齢層別に来ると、電源を切ると答えた割合は、60代以上38%、20～50代24%、10代14%と下がっているのは、世代間の意識の違い、使用状況の違いを表している(図80)。

図80　年齢層別にみる優先席付近での携帯・スマホの電源を切る割合

1. 女性専用車両

　「女性専用車両は何両目にあるか知っているか」の問いでは、「はい」が51%(288名)、「いいえ」が49%(279名)と、ほぼ半数ずつに分かれた(図81)。

図81　女性専用車両は何両目にあるか知っている割合(n=567)

1. 弱冷房車

　「弱冷房車は何両目にあるか知っているか」の問いには、「はい」27%(154名)、「いいえ」73%(412名)であった(図82)。これは、冷房に対して意識しているか否かにもよると共に、通勤・通学の都合が優先して弱冷房車の選択は後回しにしていることも考えられる。

図82　弱冷房車は何両目か知っている割合(n=566)

1. ドアに付いている車両番号

　「ドアに車両番号がついているのを知っているか」の問いには、「はい」が70%(396名)、「いいえ」が30%(168名)であった(図83)。

　知っている割合を年齢層別にみると、わずかな差であるが、若い世代ほど表示をみているように思われる（図84）。

図83　ドアに車両番号がついているのを知っている割合（n=564）

図84　ドアについている車両番号を知っている割合

1. ドアの開閉ボタン

　「ドアの開閉ボタンを知っているか」については、「はい」が86%(489名)、「いいえ」が14%(78名)であった(図85)。

図85　ドアの開閉ボタンを知っている割合 図86　ボタンの位置を知っている割合

(n=567)　　　　　　　　　　　　　　　　(n=566)

1. ドアの開閉ボタンの位置

　「ドアの開閉ボタンの位置について知っているか」については、「はい」72%(409名)、「いいえ」28%(157名)であった(図86)。

1. 位置がわからない人に気づいたことの有無

　開閉ボタンの位置がわからない人がいることに気づいたことがあるか否かについては、「はい」が16%(89名)、「いいえ」が84%(452名)であった(図87)。

　(n=541)

図87　開閉ボタンの位置がわからない人に気づいたことがある割合

1. その際、どう対処したか

　その際、どのように対処したかについては、「代わりに押してあげた」51%(55名)、「場所を教えた」29%(31名)、「何もしなかった」20%(22名)となっている（図88）。

図88　「はい」と回答した人が行った行動(n=108)

4.7　自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)

(1)　静かな車に困っている人

自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)について「困っている人がいるのを知っているか」についての問いに対して、「はい」73%(412名)、「いいえ」27%(155名)であった(図89)。

(2)　静かな車に音を出す装置

　静かな車に「あえて音を出すようになっていることを知っているか」の問いに、「はい」46%(256名)、「いいえ」54%(305名)であった(図90)。

図89　静かな車に困る人がいるのを　　　　図90　静かな車に音を出す装置が

知っている割合(n=567)　　　　　　　　　あることを知っている割合(n=561)

(3)　静かな車で音が出るのを止める装置

　「静かな車で音が出るのを止めることができることを知っているか」については、「はい」24%(133名)、「いいえ」76%(429名)であった(図91)。

 (n=562)

図91　静かな車で音が出るのを止める装置があることを知っている割合

(4)　ある程度音が出る必要性

　「ある程度、音が出たほうがよいと思うか」については、「はい」54%(305名)、「いいえ」2%(12名)、「ある程度は必要」44%(251名)であった(図92)。

図92　ある程度、音が出たほうがよいと思う割合(n=568)

4.8　外出時について

1. 視覚障害者を見かけたこと

　「町や駅で視覚障害者を見かけたことがあるか」については、「はい」が96%(546名)、「いいえ」4%(24名)であった(図93)。

1. 声をかけたか

　「見かけた時に声をかけられるか」については、「はい」43%(247名)、「いいえ」57%(321名)であった(図94)。

図93　町や駅で視覚障害者を見かけた割合 図94　見かけた時、声をかけられるか

 (n=570) (n=568)

1. 声のかけ方を知っているか

　「声のかけ方を知っているか」については、「はい」が52%(298名)、「いいえ」が48%(280名)であった(図95)。

1. 声をかけたことがあるか

　実際に声をかけたことがあるかについての問いには、「はい」が41%(230名)、「いいえ」が59%(333名)であった(図96)。

図95　声のかけ方を知っている割合(n=573) 図96　街で声をかけたことがある割合

(n=563)

1. 断られたことがあるか

　「声をかけて断られたことがあるか」については、「はい」が18%(88名)、「いいえ」が82%(401名)であった（図97）。声をかけた回答者と本質問の回答者数があっていないが、断られている数は少ないことはわかる。

図97　声をかけて断られたことがある割合 図98　「はい」と答えた方は、次にまた声を

（n=489） かけようと思うか (n=143)

　断られたことがあるとの回答者に対して「次にまた声をかけようと思うか」の問いに、「はい」87%(124名)、「いいえ」13%(19名)であった(図98)。

　「いいえ」の回答者の理由を尋ねたところ、回答者には「はい」の方も含まれており、また、複数回答となっている。「人の気持ちに背かれたから」16件、「断り方が失礼だったから」6件、「歩けるなら手伝う必要はないと思うから」18件、「その他」10件であった(図99)。

図99　「いいえ」と答えた人の理由

「その他」で自由記述の内容は、次の通りである。

・考えを改めて、気にできた

・特に必要がなさそうだったから

・声をかけないから

・めんどくさい

・何度か声掛けした事有りますが、けわしい態度で断られたことが何度あるので声掛けしないことに決めてます

・視覚障碍者の方が、何歩で目的地まで行くと考えながら、歩いているかもでしれないので、もし困っているようでしたら、お声掛けしたいなと思っています

・困ったサインを感じませんでした

・相手の方の立場になって行動して行きたいと思ってます

・わかりません

・障害者の障害の程度はそれぞれ違い、自立意識も違うので出来るだけ支援は心掛けているが、適切に行えているかどうか難しい

・とくには声掛けなし、見守っている

・目にしたとき必要があれば

・声をかけるのに勇気がいる

・少し立ち止まって様子をみたことはありますが、大丈夫なようなので声はかけなかった

・色々勉強しなければと思います

・求められたら

・そういう機会が今までになかった

・その方が必要でなければ、声掛けの必要はいらないと思った

　以上、自由記述を列挙したが、主な理由として「待ち合わせている場合」「その場所に精通している場合」「相手の声や態度が受け入れられなかった場合」「自分の体の状態による場合」などにまとめられる。

**5.　視覚障害者と晴眼者の各アンケート結果の比較**

5.1　視覚障害者の回答者と晴眼者の回答者の属性の特徴の比較

1. 回答者の男女比の特徴

視覚障害者はほぼ半々であったが、晴眼者は男性4割、女性6割であった。

1. 回答者の年齢層の特徴

　視覚障害者の回答者は60代以上が過半数を占めている一方、晴眼者は10代が4割近くを占めており、世代間の違いを考慮して検討する必要がある(図100)。

図100　回答者の視覚障害者と晴眼者の年齢層別割合(グラフ内の数字は回答者数)

5.2　視覚障害者用の設備等

(1) 点字ブロックについて

　点字ブロックは、ほぼすべての人に知れ渡っていると言える。視覚障害者は全員、晴眼者は587人中12人が「いいえ」と回答しているが、ほぼ100%に近い(図101)。点字ブロックについて認識はしているが、その使い方や種類などは知らないと考えた場合「いいえ」と答えることも考えられる。日本では全国に渡って共通した敷設状態で普及しているので、点字ブロックについては社会に浸透していると理解してよいと考えられる。

図101　点字ブロックを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

1. 内方線付きの点字ブロックについて

　内方線付きの点字ブロックを知っている割合は、視覚障害者も晴眼者もほぼ同じ割合、8割強の回答者が知っていると答えている(図102)。最近はホームでの放送も「黄色い点字ブロックよりお下がりください」と列車の入線のたびに流されており、晴眼者も足元の点字ブロックを見て、そこに線状の突線があることを認識しているものと思われる。

図102　内方線付の点字ブロックを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

1. エスコートゾーンについて

　横断歩道のエスコートゾーンについては、視覚障害者の場合は敷設されていればそこをたどって歩行することが多いと思われ、知っている割合は81%となっているが、晴眼者の場合は、知っていると答えたのは32%にとどまっている(図103)。したがって、その敷設の割合もまだ少ないと考えられる。

図103　エスコートゾーンを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

1. 歩道と車道の段差について

　歩道と車道の段差は、バリアフリー法あるいは神奈川のバリアフリーガイドラインにおいて2cmの段差を提示している。これは視覚障害者が歩車道の境界を白杖で確認しながら移動する上で求められる最低限の段差となっている。それを視覚障害者は86%が認識しているが、晴眼者の場合は64%にとどまり、「いいえ」と「わからない」の回答を合わせると36%となってしまう(図104)。

図104　歩道と車道の段差は必要か否かの回答割合(グラフ内の数値単位は%)

5.3　街で聴こえる音

1. 音の出る信号機について

　音の出る信号機については、視覚障害者も晴眼者もほとんどすべての人が知っている結果であった。そして、うるさいと思うと答えた人は非常に少なく、視覚障害者は必要と感じており、晴眼者も受け入れていると言える(図105)。

　「うるさいと思う」に「はい」と回答した人の意見を聞いたが、その回答には「いいえ」や「わからない」と回答した人も選択している。視覚障害者18人、晴眼者75人が回答している(図106)。「必要だったら仕方ない」とか「音の大きさにもよる」を合わせると9割を超えるので、基本的には受け入れられていると考えてよいと思われる(図107)。

図105　音の出る信号機を知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

図106　音の出る信号機はうるさいと思う割合(グラフ内の数値単位は%)

図107　うるさいと答えた人の意見(「はい」以外も含む)(グラフ内の数値単位は%)

1. 改札口のピンポンという音について

「改札口のピンポンとなる音を知っているか」の問いに対して、視覚障害者は97%、晴眼者は90%が知っていることから晴眼者も音を認識していることがわかる(図108)。

図108　改札口のピンポンの音に気付いている割合(グラフの数値単位は%)

　ホームの階段の鳥の声に気づいている割合は、改札口のピンポンの音よりは少し少なくなって、視覚障害者は85%、晴眼者は68%となっている(図109)。

図109　ホームの階段の鳥の声に気づいている割合(グラフの数値単位は%)

　「地下に入る入口に音がなっているのに気づいているか」の問いには、視覚障害者は61%に対して、晴眼者は32%と気づいている率は下がる(図110)。音を頼りにせずに移動している晴眼者は当然、気づいていない人たちが多くなっていると思われる。

図110　地下に入る入口に音がなっているのに気づいている割合

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(グラフ内の数値単位は%)

5.4ホームドアについて

1. ホームドア

ホームドアについては、ホームから線路上への転落経験のある視覚障害者も多く、ホームが危険な場所と認識しているので、知っている割合は98%と高いが、晴眼者は若干低く87%となっている(図111)。今回の晴眼者へのアンケートでは10代が多数を占めているが、その世代は20%がホームドアという言葉を知らない。60歳以上の年齢層は92%が知っているので、それぞれの関心事によるものと思われる。

図111　ホームドアを知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

　したがって、ホームドアの必要性も視覚障害者は97%と高く、晴眼者の必要と思う割合87%よりも10%高くなっている(図112)。

図112　ホームドアは必要か否かの問いに対する回答割合(グラフ内の数値単位は%)

　そして、設置に国・市町村・会社が負担していることも前述の事柄と同様、視覚障害者はほとんどが知っている一方で、晴眼者は低くなっている(図113)。今回の調査で晴眼者の回答者の年齢層が若いことにも起因している結果と想定される。

図113　設置に国・市町村・会社の負担があると知っている割合(グラフ内の数値単位は%)

　設置に対して運賃が上がってもよいかの質問については意見が分かれていて、「金額にもよる」というのが、いずれも5割程度であった。ただ、運賃の値上げに否定的な回答は、視覚障害者も晴眼者も10%強であり、全体としてはホームドア設置に利用者負担を肯定している意見が大半を占めていた(図114)。

図114　ホームドア設置に運賃が上がってもよいか否かの考え(グラフ内の数値単位は%)

　「値上げの額にもよる」と回答した人たちの目安は、10円から20円で70～80%を閉めていた(図115)。若干の値上げであれば、安全・安心の保障のほうを優先したいとの考えが表れている。

図115　金額にもよると回答した人の値上がり目安(グラフ内の数値単位は%)

1. 電車の車両について

1)優先席について

優先席を知っているかについては、視覚障害者が72%、晴眼者が98%と晴眼者のほうが多い(図116)。これは、路線が異なっても視覚的に絶えず確認できている晴眼者と、路線ごとに異なる車両について認識できていない場合の多い視覚障害者との違いと思われる。

図116　優先席のある場所を知っているか否かの回答(グラフ内の数値単位は%)

なお、優先席付近で携帯・スマホの電源を切るか否かについての質問に対する回答を比較すると、視覚障害者も晴眼者もほぼ変わりなく、切るのは2割強、切らないが5割強となっている(図117)。

図117　優先席近辺で携帯・スマホの電源を切るか否かの回答(グラフ内の数値単位は%)

2)女性専用車両について

　女性専用車両が何両目にあるかについては、路線によって異なることもあり、晴眼者でも知らない人が5割ぐらいを占めていた。いずれにしても視覚障害者のほうが知っている割合が4割と少なかった(図118)。

図118　女性専用車両は何両目か知っているかについての回答(グラフ内の数値単位は%)

3)弱冷房車について

　弱冷房車となると、視覚障害者の78%、晴眼者の73%が知らないと回答しており、差はみられなかった(図119)。

図119　弱冷房車は何両目か知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

4)車両番号について

　車両のドアに付いている車両番号を知っている割合は、視覚障害者も晴眼者もほぼ同じで7割が知っているという結果であった(図120)。

図120　ドアについている車両番号を知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

5)ドアの開閉ボタンについて

　ドアの開閉ボタンを知っている割合は、視覚障害者が68%、晴眼者が86%と差があった(図121)。

図121　ドアの開閉ボタンを知っているか、の回答(グラフ内の数値単位は%)

5.5　自動車について

1. 静かな車に困っている人について

視覚障害者は、ほぼすべての人が困っていることを認識しているが、晴眼者は7割強であり(図122)、視覚障害者にとっての危険性についてはあまり認識されていないと思われる。

図122　静かな車に困っている人がいることを知っているか、の回答(グラフの数値単位は%)

　この装置については、視覚障害者と晴眼者では差がみられる。晴眼者は54%が知らないと回答している(図123)。

図123　あえて音を出すようになっていることを知っているか、の回答

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(グラフ内の数値単位は%)

　静かな車で、音が出るのを止めることができることについても、視覚障害者と晴眼者では明らかに差がみられる。視覚障害者で知らない割合は44%であるが、晴眼者では76%と多くは知らない状況である(図124)。

図124　静かな車で音を止めることができるのを知っているかの回答

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(グラフ内の数値単位は%)

　車にはある程度音が出たほうがよいと思うと回答しているのは、視覚障害者では78%であるが、晴眼者では54%にとどまっており、差が大きくみられる(図125)。

図125　車にはある程度音が出たほうがよいと思う割合(グラフ内の数値単位は%)

**4. 考察**

(1)回答者の属性について

・視覚障害者の回答者183名は、男性と女性がほぼ半数ずつであり、年齢層も50代以下が43%、60代以上が57%と全世代に渡っており、アンケート回答が視覚障害者の外出をめぐる意識、理解などを示していると考えられる。一方、晴眼者の回答者は593名であり、男性38%、女性62%と女性が多く、また年齢層は60代以上が31%であるが、10代が37%を占めており、若い世代の視覚障害者への理解度が結果に影響されていると推測される。

(2)視覚障害者関係の設備などについて

・点字ブロックについては、視覚障害者、晴眼者の区別なくほとんど全ての人が知っていることがわかった。そして、ホームの内方線付きの点字ブロックについてもそれぞれ8割が知っていたことから、今日では駅ホームにおける視覚障害者用の敷設設備については認識されていることがわかる。これは、視覚障害者のホームからの転落事故が多発していることから、ホームでの放送などで点字ブロックの内側に立つよう注意が促されたり、障害者に手伝いを呼び掛けたり、視覚障害者に駅員が援助することが知らされたりしていることが、一般乗客にも耳に入ってくることから、構内設備についても認知されているとも考えられる。

　今後は、点字ブロックという用語を知っていることにとどまらず、点字ブロックの役割を理解し、点字ブロック上に不用意にものを置かないことや、ホーム上の内方線を含む点字ブロックが視覚障害者の転落の危険を少しでも軽減していることにつながっていることを周知する必要がある。

(3)街で聴こえる音について

・音の出る信号機は、ほぼ全ての人に浸透しており、うるさいと感じている人も少ない。また、駅改札口のピンポンとなる音についても視覚障害者は97%、晴眼者は90%が気づいており、視覚障害者にとって外出時における音情報の必要性は理解されていると考えられる。ホームの階段での鳥の声や地下に入る入口の音などは視覚障害者も気づいている割合が少し下がるが、晴眼者はさらに下がっている。晴眼者にとっては環境騒音の中に埋もれてしまい認知されにくいと考えられる。

・横断歩道のエスコートゾーンを知っている割合は視覚障害者の81%であり、晴眼者は32%にとどまっている。これは普及率がまだ低いこともあることと晴眼者へのアンケートで10代が多く、この世代は20%しか知らないという実情からきている。したがって、普及度と認識度は関係していると考えられ、今後はエスコートゾーンの敷設を促進していく必要がある。

(4)ホームドアについて

・ホームドアは、視覚障害者にとってはホームでの安全な移動を保障するものとして97%が知っているが、晴眼者では少し下がって87%となる。したがって、視覚障害者はほぼ全ての人が必要と考えているが、晴眼者は84%であり、世代別にみると若い世代よりも高齢の世代に必要と考える人が多い。これも身体的な状態によって少しずつ認識の違いがあることがわかる。また、ホームドアの設置について運賃が上がってもよいかについて、値上げ率が低ければ許容してもよいという意識がうかがえた。設置負担することに否定的な割合は、視覚障害者14%、晴眼者13%であり、他は負担に肯定的か「金額にもよる」と回答している。この結果からは総じてホームドアの設置が行政、会社のみの負担では長期間かかるので、利用者負担もわずかならやむを得ないと考えているとみられる。

　一般晴眼者もホームからの転落が年間3千件を超えており、怪我や死亡事故につながっていることは報道を通じて知られており、ホームドアが最も事故を防ぐ手段であると認識している。

(6)電車の車両について

・優先席の場所は、晴眼者はほぼ全てが知っているが、視覚障害者は72%となり、把握していない人もみられる。また、優先的での携帯・スマホの電源を切るのはそれぞれ2割強い、切らないが5割程度なっている。どちらとも言えないと回答している2割強も含めれば、7割以上が切らない傾向にあることがわかる。これは、ペースメーカーの作動は席に座っている程度の距離では影響がないことなどから、車内放送で、優先席付近でスマホなどの電源を切るよう促す放送がされなくなったこともあると思われる。したがって、これまではモラルの問題として乗客間のトラブルにもつながっていたが、放送にて適切な周知がなされればよいのではないだろうか。

(7)自動車(ハイブリッドカー・電気自動車)について

・静かな自動車に困っている人がいることは、視覚障害者はほぼ全ての人が知っていたが、晴眼者は73%であり、あえて音を出すようになっていることを知っているのは、視覚障害者は72%に対して晴眼者は46%と低く、音の出るのを止めることができることについても視覚障害者が56%知っているのに対して、晴眼者は24%に下がる。こうした結果からもわかるように、車にはある程度音が出たほうがよいと思うと回答しているのは、視覚障害者が78%に対して晴眼者は54%にとどまっている。視覚障害者が道路における環境音、自動車の移動音というのは重要な移動情報であることについて、さらなる認識が求められる。それと共に、法的な対応が課題解決に向かうと考えられる。

(7)外出時について

・視覚障害者が声をかけられた経験は91%がもっていた。そして、困った時には声をかけてほしいが69%であり、いつでもかけてほしいが16%であることから、通行人の援助については期待していることがわかる。他方、声をかけられたときに断ったことがあるかについては、「ある」が64%であり、その理由は、「わかっている場所だから」「急いでいたから」などであった。

・晴眼者へのアンケートでは、街や駅で視覚障害者を見かけたことがあるとの回答は96%であり、大方の人たちは視覚障害者が外出していることを認識しているが、声をかけられるかという問いに43%が「はい」と回答しており、少しの積極性が必要なことをうかがわせる。声のかけ方を知っているのは52%であるが、実際に声をかけているのは41%であり、断られたことがある経験をしているのは18%であった。断られた人たちに「次にまた声をかけようと思うか」の問いに、わずかながら13%が「いいえ」と答えており、その理由として「歩けるなら手伝う必要はないと思うから」18件、「人の気持ちに背かれたから」16件、「断り方が失礼だったから」6件などとなっている。視覚障害者が必要としている時と通行人が声掛けをするタイミングが一致していないことがあることがわかる。しかし、視覚障害者としては困った時などに声をかけてほしいと思っているので、そうでないタイミングで声掛けを受けた場合も次につながるような断り方をするよう心掛けることが必要だと思われる。

　以上、アンケート結果から、視覚障害者の外出時のさまざまな事柄について、その認識度、意識などを把握すると、晴眼者の各世代に対して視覚障害者への理解をさらに求めていく必要があることと、視覚障害者が積極的に外出しながらその経験を社会に啓発すること、また関係行政機関、鉄道会社に自らも協力していくことを表明しつつ設備改善を働きかけていく必要があることなどがわかった。

**添付資料**

1. 視覚障害者対象のアンケート調査用紙
2. 一般晴眼者対象のアンケート項目用紙
3. 視覚障害者対象のアンケート調査用紙

Ⅰ　基本事項

１－１　あなたの年代をお知らせください。

１．１０代　２．２０代　３．３０代　４．４０代　５．５０代　６．６０代　７．７０代以上

１－２　あなたの性別を教えてください。

１．男性　２．女性

１－３　視覚障害手帳の等級について

１．１級　２．２級　３．３級　４．４級　５．５級　６．６級　７．手帳は持っていない

１－４　職業はなんですか？

１．中・高・大学生　２．専門学校生　３．会社員　４．公務員　５．自営業　６．専業主婦　７．無職　８．その他

Ⅱ　あなたの外出方法について伺います

２－１　一人で外出ができますか？

１．自由に外出できる　２．一人では外出できない

２－２　一人で外出するときに何を使用していますか？

１．白杖　　２．盲導犬　　３．白杖や盲導犬は使わない　　４．ソニックガイドのような歩行支援機機

２－３　一人で交通機関を利用できますか？できるもの全てお答えください。

１．電車　２．バス　３．タクシー　４．モノレール　５．路面電車（江ノ電）　６．その他

２－４　同行援護制度を利用していますか？

１．はい　２．いいえ

２－４－１　いいえと答えた方に伺います。同行援護制度を利用しない理由は何ですか？

１．制度を知らない　２．使いたくない　３．他の制度を利用している。

２－５　同行援護制度以外で外出する場合、どのような人的支援を受けていますか？（複数回答可）

１．家族　２．移動支援　３．ボランティア　４．視覚障害の無い友人　５．視覚障害のある友人　６．その他

Ⅲ　視覚障害者関係施設

３－１　点字ブロックを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

３－２　ホームの内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックをしっていますか？

１．　はい　２．　いいえ

３－３　点字ブロックや内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックの色が黄色だと言うことを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

３－４　横断歩道にある「エスコートゾーン」を知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　わからない

３－５　歩道と車道の段差は必要だと思いますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　わからない

Ⅳ　街で聞こえる音について

４－１　音の出る信号機を知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

４－２　知っている方に伺いますが、これらの音をうるさいと思いますか？

１．　はい　２．　いいえ

４－２－１　はいと答えた方は、これらの音についてどのように思いますか？

１．必要だったら仕方ない　２．大きさにもよると思う　３．音は必要ない

４－３　改札口で鳴っている「ピンポン」と鳴る音に気づいていますか？

１．　はい　２．　いいえ

４－４　ホーム上の階段の鳥の声に気づいていますか？

１．　はい　２．　いいえ

４－５　地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいていますか？

１．　はい　２．　いいえ

Ⅴ　ホームドアについて

５－１　ホームドアを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

５－２　ホームドアは必要と思いますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　わからない

５－３　ホームドアは一般の人にも役立つと思いますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　わからない

５－４　ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していることを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

５－５　ホームドア設置のために運賃が上がってもかまいませんか？

１．　はい　２．　いいえ　３．金額にもよる

５－６　金額にもよると答えた方は、いくらまでなら運賃が上がってもよいですか？

　１．～10円　２．～20円　３．～５０円

Ⅵ　電車の車両について伺います

６－１　「優先席」のある場所を知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－２　優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切りますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　どちらとも言えない

６－３　女性専用車両は何両目か知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－４　弱冷房車は何両目かを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－５　ドアについている車両番号を知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－６　ドアの開閉ボタンについて知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－７　ドアの開閉ボタンの位置はわかりますか？

１．　はい　２．　いいえ

６－７－１　いいえと答えた方は、どのように対応していますか？

１．自分で見つけている　２．人に頼んでいる　３．車掌さんに頼んでいる　４．駅員にお願いしている　５．その他（　　　　　　　　　）

Ⅶ　自動車（ハイブリッドカー・電気自動車）について

７－１　静かな車ができて困っている人がいるのを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

７－２　静かな車があえて音を出すようになっていることを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

７－３　静かな車で音が出るのを止めることができることを知っていますか？

１．　はい　２．　いいえ

７－４　車にはある程度の音が出た方が良いと思いますか？

１．　はい　２．　いいえ　３．　ある程度は必要

Ⅷ　外出した時に

８－１　声をかけられたことがありますか？

１．　はい　２．　いいえ

８－２　声をかけてほしいと思ったことはありますか？

１．困ったときにはかけてほしい　２．いつでもかけてほしい　３．どちらとも言えない

８－３　声をかけられたときに断ったことはありますか？

１．　はい　２．　いいえ

８－４　８－３で断った人に伺いますが、断った理由はなんですか？複数回答可

１．わかっている場所だから　２．急いでいたから　３．その他（ご自由にお書きください）

ご協力ありがとうございました。

(2)一般晴眼者対象のアンケート用紙

Ⅰ　基本事項

１－１　あなたの年代をお知らせください

１．１０代　　２．２０代　　３．３０代　　４．４０代５．５０代

６．６０代　　７．７０代以上

１－２　あなたの性別を教えてください。

１．男性　　２．女性

１－３　職業はなんですか？

１．中・高・大学生　　２．専門学校生　　３．会社員　　４．公務員　　５．自営業

６．専業主婦　　７．無職　　８．その他

Ⅱ　障害者全般について伺います

２－１　次の中で、見たり・聞いたり・体験したことがあるものをあげてください

（複数回答可）

１．車いす　　２．電動車いす　　３．白杖　　４．手話　　５．要約筆記

６．松葉杖　　７．T字杖　　８．ロフストランド杖　　９．義足　　１０．義手

１１．義眼　　１２．盲導犬　　１３．聴導犬　　１４．介助犬

Ⅲ　視覚障害者関係施設

３－１　点字ブロックを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

３－２　ホームの内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

３－３　点字ブロックや内方線（点字ブロックの手前についている細い凸状のライン）付き点字ブロックの色が黄色だということを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

３－４　横断歩道にある「エスコートゾーン」を知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　わからない

３－４　歩道と車道の段差は必要だと思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　わからない

3-5　　点字ブロックの上に物や自転車を置いてはいけないことを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

Ⅳ　街で聞こえる音について

４－１　音の出る信号機を知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

４－２　知っている方に伺いますが、これらの音をうるさいと思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ

４－２－１　はいと答えた方は、これらの音についてどのように思いますか？

１．必要だったら仕方ない　　２．大きさにもよる　　３．音は必要ない

４－３　改札口で鳴っている「ピンポン」と鳴る音に気づいていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

４－４　ホーム上の階段の鳥の声に気づいていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

４－５　地下に入る入口で、音が鳴っていることに気づいていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

Ⅴ　ホームドアについて

５－１　ホームドアを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

５－２　ホームドアは必要と思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　わからない

５－３　ホームドアは一般の人にも役立つと思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　わからない

５－４　ホームドアを設置するために、国・市町村、鉄道会社がそれぞれ費用を負担していることを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

５－５　ホームドア設置のために運賃が上がってもかまいませんか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．金額にもよる

５－６－１金額にもよると答えた方は、いくらまでなら運賃が上がってもかまいませんか？

１．～１０円　　２．～２０円　　３．～５０円

Ⅵ　電車の車両について伺います

６－１　「優先席」のある場所を知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－２　優先席近辺で携帯電話やスマートフォンの電源を切りますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　どちらとも言えない

６－３　女性専用車両は何両目か知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－４　弱冷房車は何両目かを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－５　ドアについている車両番号を知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－６　ドアの開閉ボタンについて知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－７　ドアの開閉ボタンの位置はわかりますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－８　ドアの開閉ボタンの位置がわからない方に気づいたことがありますか？

１．　はい　　２．　いいえ

６－８－１　はいと答えた方に伺います。その時あなたはどうしましたか？

１．代わりに押してあげた　　２．場所を教えた　　３．何もしなかった

Ⅶ　自動車（ハイブリッドカー・電気自動車）について

７－１　静かな車ができて困っている人がいるのを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

７－２　静かな車があえて音を出すようになっていることを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

７－３　静かな車で音が出るのを止めることができることを知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

７－４　車にはある程度の音が出た方が良いと思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ　　３．　ある程度は必要

Ⅷ　視覚障害者に対して

８－１　街や駅で視覚障害者を見かけたことがありますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－２　見かけたときに声をかけられますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－３　声のかけ方を知っていますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－４　見かけたときに声をかけたことがありますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－５　声をかけたときに断られたことがありますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－６　８－５ではいと答えた方に伺います。次にまた声をかけようと思いますか？

１．　はい　　２．　いいえ

８－７　８－6でいいえと答えた方にうかがいます。その理由はなんですか？

１．人の気持ちに背かれたから　　２．断り方が失礼だったから

３．歩けるなら手伝う必要はないと思うから

４．その他　ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

**特定非営利活動法人　神奈川県視覚障害者福祉協会**

〒252-8540　神奈川県座間市入谷東3-55-1　C-102号

神奈川ライトハウス内

理事長　鈴木　孝幸

電話: 046-205-6040

FAX: 046-205-6971

e-mail: jimu@npo-kanagawa.org

**調査協力: 神奈川工科大学　小川研究室**